



歴史建物まちあるき

平成23年度 文化財クローズアップ事業

港町として発展した下田旧市街地には、今日でも往時を偲ぶ町並みや、古い商家や民家、倉などが残っています。今回のまちあるき企画は、ベリ―艦隊『日本遠征記』に描かれた下田の風景をボランティアガイドの案内でめぐり、まちの原風景と魅力を再発見しようとするものです。

なお、まちあるきには、所有者のご協力により、雑忠家や鈴木家、安直樓の特別公開が含まれています。歴史ある建物を見学する好機となりますので、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

●ボランティアガイド案内 まちあるきコース(約2時間)

受付時間 午前9時～9時15分
見学場所 ベリ―ロード周辺、雑忠家、鈴木家、安直樓
◎平滑川周辺見学コース(約1時間)

受付時間 午前10時～10時30分
見学場所 平滑川周辺(ベリ―ロード)
定員 各コース30名ずつ
受付場所 市民文化会館駐車場
参加資格 当日午後1時から予定されている「歴史的町並みを活かした魅力的なまちづくり」シンポジウムに参加可能な方。

参加費 200円(保険料等)
応募期間 9月12日(月)から
※定員になり次第終了

10月1日から 国民健康保険被保険者証が変わります

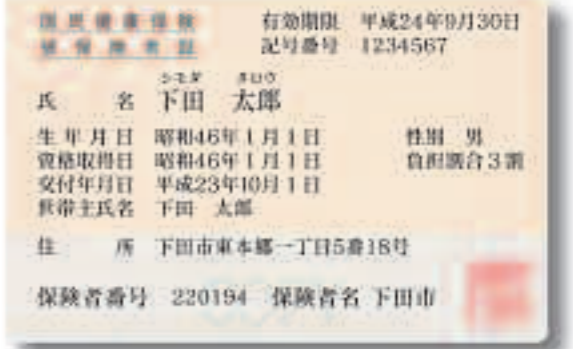
問合せ先 健康増進課国保年金係 ☎23922



新しい被保険者証は【クリーム色】で、9月下旬に郵便でお届けします。現在お使いの保険証【藤色】の有効期限は、9月30日までです。10月1日からは使用できませんので、各自ハサミで切るなど処分してください。保険証が届きましたら、次のことを確認してください。

●確認事項

1. 他の健康保険証と重複している人はいませんか。
2. 国民健康保険の加入者にもれはありませんか。
3. 氏名や生年月日に誤りはありますか。
4. 転居・転出など住所を異動した人はいませんか。
5. 学生用の保険証を交付している世帯の方で、卒業もしくは現在、在学中でない方はいませんか。



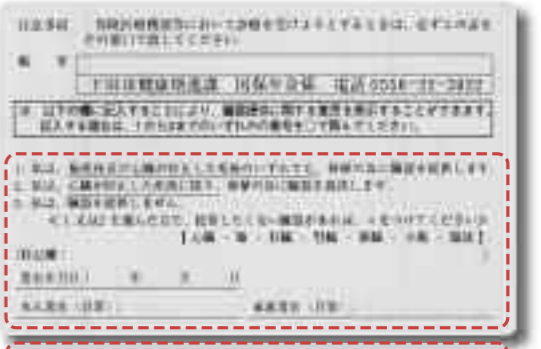
確認事項のいずれかに該当する場合は手続きが必要です。健康増進課国保年金係(市役所3番窓口)で手続きをしてください。

国民健康保険税が未納になっている世帯の方は、新しい保険証を税務課の窓口で更新していただく場合があります。

保険証の裏面に臓器提供の意思表示ができるようになります

臓器移植に関する法律が改正され、保険証に「臓器提供に関する意思表示欄」が設けられることになりました。下田市でも、今年の保険証から裏面の様式が変更となります。

- ・臓器提供の意思表示欄への記入は任意です。
- ・記入の有無により、受けられる医療内容に違いが生じることはありません。
- ・記入後も、いつでも臓器提供に関する意思を変更できます。その場合、保険証の再交付を受け、改めて変更後の意思を記入してください。
- ・個人情報保護シールを同封しますので、ご活用ください。



臓器提供意思表示欄に記入した後、保護シールを点線部分に貼り付けて使用することができます。

ジェネリック医薬品希望カードを同封します

●ジェネリック医薬品とは
医師の処方箋に基づいて調剤される「医療用医薬品」のうち、先発医薬品の特許期間終了後に承認を得て販売される、同じ主成分・同等の効果を持つ後発医薬品のことです。ジェネリック医薬品は先発医薬品より、薬価は低く設定されています。

●カードの使用方法
同封した「ジェネリック医薬品希望カード」裏面に氏名を記入して医療機関や薬局に提示することで、ジェネリック医薬品の利用について相談に乗ってもらうことができます。

【注意】※先発医薬品によっては、ジェネリック医薬品がない場合があります。※有効成分が先発医薬品と同じでも、添加剤などはメーカーごとに異なる場合があります。



市役所から しんじゆは vol.37

伊豆縦貫自動車道は、沼津市から下田市を繋ぐ延長約60kmの自動車専用道路(高規格幹線道路)で、全線開通すると下田市から東名沼津ICまで、約50分(現状と比べ約80分の短縮)で到着することが可能となります。

伊豆縦貫自動車道は現在、3つの区間に分けられて事業が進められています。
東駿河湾環状道路(沼津市～函南町)、天城北道路(伊豆市内)、そして下田市を通過する河津下田道路(下田市～河津町)の3区間です。
東駿河湾環状道路、天城北道路は工事着手され、道路の姿が見えてきておりますが、河津下田道路は未だ工事着手されておりません。
伊豆縦貫自動車道「河津下田道路」は、下田市の観光振興や観光シーゾンの渋滞解消のみならず、災害時の「緊急輸送路」、医療機関への救急搬送時の「命の道」としても大きな効果が期待されます。



(建設課 山田 大伸)

先の東日本大震災では、沿岸部を通る国道が津波等で通行止となった一方、内陸部を通る東北自動車道は震災翌日には、緊急車両が通行可能となり、高速道路等を「幹」とした「くしの歯作戦」により、災害初期の救助・復興に大きな効果を上げました。伊豆地域は、急峻な山岳地帯や海岸線を国道が通過しているため、予想される東海地震、それに伴う津波が発生した場合、道路崩壊等による「陸の孤島化」も懸念されます。災害に強い「幹」となる伊豆縦貫自動車道が、今一段と強く必要とされているのではないのでしょうか。
私も伊豆縦貫道係では、伊豆縦貫自動車道「河津下田道路」及び関連する都市計画等の作業を進めております。
伊豆地域の背骨となる伊豆縦貫自動車道の早期完成を目指し、取り組みを進めて参りますので、ご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

申込・問合せ先
教育委員会生涯学習課
☎235055